

第79回愛知学院大学モーニングセミナー

**「古事記が発刊されてから
1300年！！」**

**愛知県立大学 日本文化学部
教授 久富木原 玲**

2012年10月9日

古事記が発刊されてから千二百年

その結婚・出産と人生観・世界観

愛知県立大学 久富木原 玲

一、性愛賛歌について

【資料1】 イザナキとイザナミ（人名は片仮名で記す）

其の島（オノゴロ島）に天降り坐して、天の御柱を見立て、八尋殿を見立てき。是に、其の妹イザナキノミコトを問ひて曰ひしく、「汝が身は、如何にか成れる」といひしに、答へて白ししく、「吾が身は、成り成りて成り合はぬ処在り」とまをしき。

爾くして、イザナキノミコトの詔ひしく、「我が身は成り成りて成り余れる処一処在り。故、此の吾が身の成り余れるを以て、汝が身の成り合はぬ処を刺し塞ぎて、国土を生み成さむと以為ふ。生むは如何に」とのりたまひしに、イザナミノミコトの答へて曰く「然、善し」といひき。

【資料2】 ヤマトタケルとミヤズヒメ

其の国より科野国に越えて、乃ち科野之坂神を事向けて、尾張国に環り来て、先の日に契れるミヤズヒメの許に入り坐しき。是に、大御食を献りし時に、其のミヤズヒメ、大御酒盞を捧げて献りき。爾くして、ミヤズヒメ、其のおすひの欄に、月経を著けたり。故、其の月経を見て、御歌に曰はく、

ひさかたの 天の香具山 鋭喧とがまに さ渡る 鶺鴒くび 弱細ひはぼそ 撓や腕を 枕かむとは

吾はすれど さ寝むとは 吾は思へど 汝が着せる 襲衣の欄に 月立ちにけり

爾くして、ミヤズヒメ、御歌に答へて曰はく、

高光る 日の御子 やすみしし 我が大君 あらたまの 年が来経れば あらたまの 月は来経行く うべな うべな 君待ち難に 我が着せる 襲衣の欄に 月立たなむよ

故爾くして、御合みあひして、其の御刀の草那芸くさなぎのつるぎ剣を以て、其のミヤズヒメの許に置き

て、伊服岐能山いふきのやまの神を取りに幸行しき。

★ 絵画資料① 「日本武尊」 青木繁



二、神と動物との結婚・出産―海幸山幸神話のウガヤフキアヘズノミコト

【資料3】

是に、海の神の女トヨタマビメノミコト、自ら参る出でて白ししく、「妾は、已に妊みぬ。今、産む時に臨みて、此を念ふに、天つ神の御子は、海原に生むべくあらず。故、参る出で至れり」とまをしき。爾くして、即ち其の海辺の波限にして、鶉の羽を以て葺草と為て、産屋を造りき。是に、其の産屋を未だ葺き合へぬに、御腹の急かなるに忍へず。故、産屋に入り坐しき。

爾くして、方に産まむとする時に、其の日子に白して言ひしく、「凡そ他^{あた}し国の人^はは、産む時に臨みて、本つ国の形を以て産むぞ。故、妾、今本の身を以て産まむと為。願ふ、妾を見ること勿れ」と言ひき。是に、其の言を奇しと思ひて、窃かに其の産まむとするを伺へば、八尋^{はらばひ}わにと化りて、匍匐^{もじよひ}ひ委蛇^ひひき。即ち見驚き畏みて、遁げ退きき。爾くして、トヨタマビメ、其の伺ひ見る事を知りて、心恥ずかしと以為ひて、乃ち其の御子を生み置きて、白さく、「吾は、恒に海つ道を通りて往来はむと欲ひき。然れども、吾が形を伺ひ見つること、是甚^{はづか}作^しし」とまをして、即ち海坂を塞ぎて、返り入りき。

三、古事記の多様な世界観

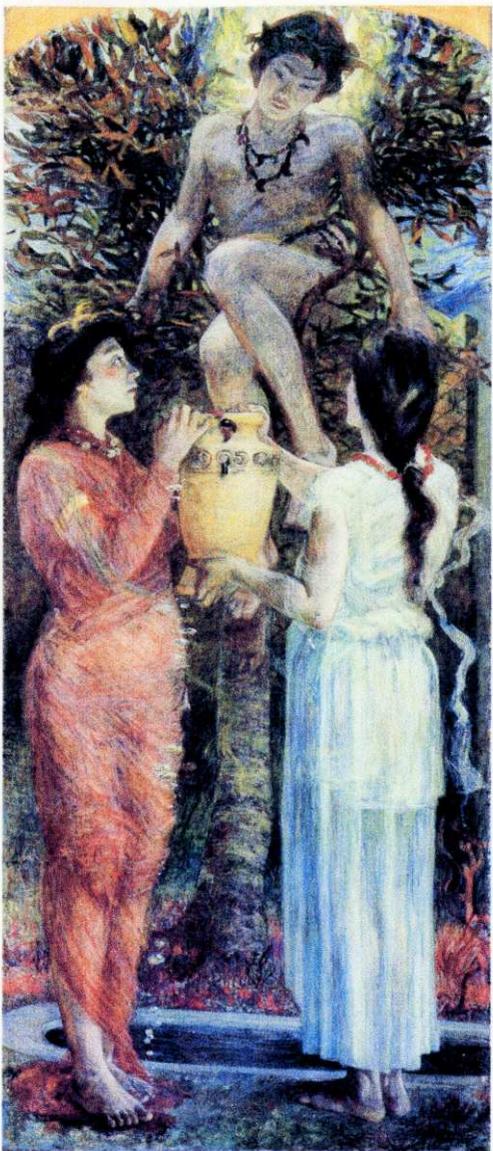
1 天上の神々の世界

2 黄泉の国(死者の世界)↓イザナキの訪問

★ 絵画資料② 「黄泉比良坂」

3 海神の国↓海幸・山幸

★ 絵画資料③ 「わだつみのいるこの宮」



4 常世の国↓大国主を助けるスコナビコナ(小日子子譚)

5 地上の世界↓ニニギノミコトが地上で最初に出会ったのはコノハナノサクヤビメ

★ 絵画資料④ 「彦火々出見命」
★ 絵画資料⑤ 「コノハナノサクヤビメ」 堂本印象(左下記念切手の左側)



四、古事記の人生観—スサノオ・ヤマトタケル・オオクニヌシ

1 スサノオ、父イザナキ・アマテラスの高天原から追放される。

【資料4】三貴子の分治

「ア」(イザナキはスサノオに海を治めるように命令するが、スサノオは髭が心臓まで伸びてもまだ泣きわめいてばかりいて、山は枯れて海も泣き乾してしまつた。そのため、さまざまな災いが起こつた。イザナキが理由を尋ねると、「母の国に行きたい」と言うので、イザナキは怒つて追放する。)

「汝が命は、海原を知らせ」と事依しき。

故、各依し賜ひし命の随に知らし看せる中に、ハヤスサノオノミコトは命せらえし国を治めずして、八拳須心前に至るまで、啼きいさちき。其の泣く状は、青山を枯山の如く泣き枯らし、河海は悉く泣き乾しき。是を以て、悪しき神の音、狭蠅の如く皆満ち、万の物の妖、悉く発りき。—以下略—

「イ」スサノオ、高天原から追放される。

・ 姉アマテラスの岩屋戸籠もり。↓スサノオの罪

※この時もさまざまな災いが起こる。

・ 八百万の神から追放される。

2 ヤマトタケル、父から追放される。

【資料5】景行天皇

(天皇はヤマトタケルに兄のオオウスノミコトに朝夕の食事に出て来るように教え諭すように言ったところ、タケルは兄を殺してしまう。天皇はタケルの荒々しさを

を恐れ熊襲征伐に行かせる。」

天皇、小碓命を問ひて賜はく、「何とかも汝が兄の久しく参る出で来ぬ。若し未だ誨へず有りや」ととひたまふに、答へて白ししく、「既にねぎ為つ」とまをしき。又、詔りはく、「如何にかねぎしつる」とのりたまふに、答へて白ししく、

「朝署に廁に入りし時に、待ち捕らへ、とりひだきて、其の枝を引き闕けて、薦に裏みて投げ棄てつ」とまをしき。

3 オオクニヌシノミコト―数々の苦難を乗り越えて、国作りを成し遂げる。

「ア」八十神たち兄弟から迫害を受ける。

山の上から大きな焼け石を投げつけて、これを受け止めさせて死なせる。

↓御祖命が天に訴えたところ、キサカヒヒメとウムカヒヒメが派遣され、母の乳汁を塗って生き返らせる。

「イ」その後も、兄弟たちは殺そうとするので御祖命が根堅州国に行くように勧め

る。

・蛇の室

・ムカゲと蜂の室

・野原でオオクニヌシの回りに火をつけて焼き殺そうとする。

※ 最後は、眠ったスサノオから娘のスセリビメと生太刀・生弓矢・天の沼琴を奪って逃げ、スサノオから「兄弟たちをその弓矢で降参させて大国主神となれ」と言われ、国作りをする。

■ 絵画資料及び写真紹介 ■

絵画資料

- ① 日本武尊―青木繁、明治39年 東京国立博物館
(『青木繁と近代日本のロマンティズム』図録
2003年)
- ② 「黄泉比良坂」青木繁、明治36年
東京芸術大学美術館蔵(右に同じ)
- ③ わだつみのいるこの宮―青木繁 明治40年
石橋財団石橋美術館蔵(右に同じ)
- ④ 彦火々出見命 『日本絵巻大成』22 中央公論社
1979年
- ⑤ コノハナノサクヤビメ―堂本印象
本年度翻訳刊行されたチェコ語訳表紙より

(カレル・フィアラ訳)

※写真―猿投神社

↓大碓命を祭る

